

#### 4 小学校中学年用「奈良公園のシカ」 指導例

本資料は、自然と人間との共存を視点として描かれており、人間の側からの一方的な保護ではなく、人間も自然の一部と考える謙虚さや自然への畏敬に根ざした愛護・共生の大切さがテーマである。題材として取り上げられた奈良公園の自然は、本県の児童にとっては身近であると思われ、強く学習への興味を喚起することであろう。また、主人公は児童にとって等身大であり、その思いを読み取ったり共感したりすることを通して、自然に対する自分自身の考えと向き合うことができる。

展開前段では、お兄さんの言葉等を手がかりとしながら、自然を守ることや自然と共に生きることの大切さについて考えさせたい。また、展開後段では、普段の生活や理科、総合的な学習の時間等でこれまでに感じたり気付いたりしてきたことについて話し合い、身近な自然とどのように関わっていくか、それぞれに考えを深めさせたい。

- ◆ **主題名** ふるさとの自然      **指導内容** 中3－(2)
- 資料名** 奈良公園のシカ      (奈良県郷土資料 奈良県教育委員会)

#### ◆ **ねらい**

奈良公園のシカについて様々なことを知って郷土の自然に対する考えを深める主人公の姿に共感し、その気持ちを考えることを通して、身近な自然を大切にしようとする心情を高める。

#### ◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、奈良公園に行った経験を話し合う。	○ 奈良公園に行ったことはありますか。 ・家族でハイキングをした。 ・シカせんべいをあげたことがある。	・経験を自由に話し合わせ、本時の学習にスムーズに入っていけるようにする。	
展 開	2、資料「奈良公園のシカ」を読んで話し合う。	○ お兄さんの話を聞いたタケシは、どうしてじっと考え込んでしまったのでしょうか。 ・これまで何も考えずにシカに物をあげていたから。 ・シカにとって奈良公園はすみよい場所だと思っていたから。 ○ 鹿苑 <small>えん</small> の多目的ホールで「白ち	・自分たちの経験も振り返らせることで、シカをかわいいと思って何気なく食べ物をあげようとしたり、お兄さんの話を聞いて衝撃を受けたりしたタケシに共感できるようにする。 ・交通事故だけでなく、観	

展 開	3、自分を振り返る。	<p>やん」のことなどを知ったとき、タケシはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の都合で、シカたちを苦しめていたなんて。</li> <li>・シカたちは、人間のことをどんなふうにも思っているんだろう。</li> </ul> <p>◎ 奈良公園の人々やシカたちを見ながら、タケシはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日知ったことを、たくさんの人に教えたい。</li> <li>・シカも人間もみんなが仲よく暮らしていける町にしていきたいな。</li> <li>・ずっとこんな景色が見られるように、奈良公園をみんなで守っていきたい。</li> </ul> <p>○ 自分たちの身近な自然について考えたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇川の水をきれいにして、生き物を呼び戻したいと思う。</li> <li>・動物が車にひかれて死んでいる姿をよく見かけることがある…</li> </ul>	<p>光客のマナー等によるシカの受難を押さえ、シカにとってときに人間が脅威となっていることを知ったタケシの気持ちに共感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良公園の自然の仕組みを図示するなどして、資料の内容を踏まえながらタケシが奈良公園の自然を大切に思う気持ちの深まりに共感させる。</li> <li>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基にして積極的に話し合えるようにする。</li> <li>・日常の生活や各教科等の学習などで感じたことなどを自由に話し合わせ、身近な自然を大切にしようとする心情を高められるようにする。</li> </ul>	ワークシート
	4、指導者の話を聞く。	<p>○ 「心のノート 小学校3・4年」62ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心のノート」を活用したり、自然を守るために力を尽くしている人々や指導者自身の自然に対する思いを話したりして、郷土の自然を大切に守っていこうする心情を温める。</li> </ul>	「心のノート」
終 末				

※「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm)

## 5 小学校中学年用「平城宮跡を守る」 指導例

本資料は、平城宮跡の保存に尽力した郷土の先人、棚田<sup>か</sup>嘉十郎を取り上げており、奈良県郷土資料（昭和61年 奈良県教育委員会）に掲載された「大極殿あとに初日が照る」を参考に作成したものである。

棚田嘉十郎については、小学校中学年の社会科副読本「奈良県の暮らし」にも掲載があり、社会科における学習との関連を図った指導が効果的である。展開前段では、資料の記述を基に、平城宮跡保存に自分の生涯をかけた嘉十郎の願いや努力を知り、その行動を支えた情熱を感じとらせたい。また、展開後段では、身近な自分たちの町を振り返り、改めて郷土に目を向け、郷土を愛する心情を高めたい。

◆ **主題名** 郷土を守る 指導内容 中4－(5)

**資料名** 平城宮跡を守る (奈良県郷土資料 奈良県教育委員会)

◆ **ねらい**

郷土の先人である棚田嘉十郎が、私財をなげうって平城宮跡を守ろうとした努力を知り、その思いについて話し合うことを通して、郷土を愛する心情を高める。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、平城宮跡について話し合う。	○ 平城宮跡を知っていますか。 ・平城遷都1300年祭に行ったよ。 ・社会科の「奈良県の暮らし」に出ていたな。	・自由に話し合わせ、資料への興味・関心を喚起する。	
展 開	2、資料「平城宮跡を守る」を読んで話し合う。	○ 旅人に都の場所を教えることができなかつた嘉十郎は、どんなことを思ったでしょう。 ・知らないことが恥ずかしい。 ・奈良を訪れた人々に奈良のことを教えたい。  ○ 過労と栄養失調で目が見えなくなつても、平城宮跡の保存のために力を尽くそうとする嘉十郎をつき動かしていたのは、どんな思いだったのでしょうか。 ・平城宮跡を後の世にずっと残したい。 ・平城宮跡は奈良だけでなく日本の国の人々のためにも守らなければならないんだ。	・都のあとを自分で調べる嘉十郎の姿に着目させ、平城京や奈良に対する嘉十郎の思いに共感できるようにする。  ・初めは人々に受け入れられなかつたことや努力の甲斐あつて協力者が少しずつ増えてきたこと、単に奈良だけでなく日本の国の宝物であると考えていた嘉十郎の思いなどを押さえ、嘉十郎の行動を支えた情熱を感じとることができるようにする。	

展 開	<p>3、自分たちの郷土について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きっと平城宮跡保存の大切さを人々は分かってくれる。</li> <li>◎ おじいさんの話を聞いたアツコには、平城宮跡がこれまで見てきたものと違うもののように見えてきたのはなぜでしょう。</li> <li>・これまでは有名な場所と認めていただけだったから。</li> <li>・平城宮跡には嘉十郎さんの思いがこめられていると感じたから。</li> <li>・今みんなが訪れることができるのは嘉十郎さんのおかげだと知ったから。</li> <li>○ 身近な町で大切にされているものや、町のために力を尽くした人のことについて話し合ってみましょう。</li> <li>・〇〇の木は一度枯れかけたけど、町の人みんなで守ってきた。</li> <li>・△△神社のお祭りは昔からずっと続けられているそうだ。</li> <li>・社会科で□□さんのことを調べたな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんの言葉を手がかりにして、嘉十郎の情熱と努力を知って平城宮跡に対する見方が変わった主人公に共感できるようにする。</li> <li>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、意見交流させてもよい。</li> <li>・「もし嘉十郎が今の平城宮跡を見たなら、どんなことを思うだろうか」と問うこともできる。</li> <li>・自分たちの郷土を振り返り、郷土について知っていることや考えたことなどを自由に話し合うことで、自分たちの郷土に目を向け、郷土を愛する心情を高めるようにする。</li> </ul>	ワークシート
終 末	<p>4、指導者の話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土のために力を尽くしている人々の話などにより、郷土を愛する心情を温める。可能であれば、ゲストティーチャーとして話をさせていただくことも考えられる。</li> </ul>	